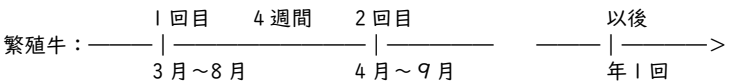
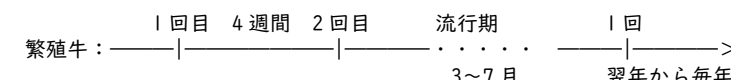
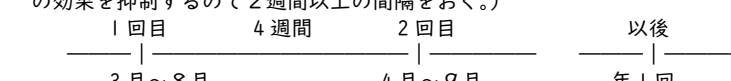
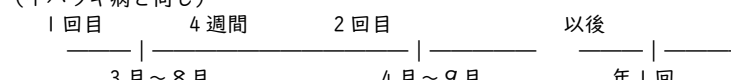


牛の予防接種（令和6年度・春夏用）

（公社）静岡県畜産協会

ワクチン	疾病発生時期・主な症状	注射実施時期	注射方法	料金；税込み（本体） （1頭・1回当り）
アカバネ病（生）	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時期 夏から晩秋にかけて発生する。 ・主な症状 流産、死産、早産、子牛の前肢湾曲、斜頸、脊髄のS字状湾曲、盲目、大脳欠損（母牛は無症状） 	蚊から感染するので、蚊の発生の1ヶ月前から蚊の発生が終息するまでの間。 1回目を3月～8月頃。	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての牛は、4週間隔で2回、その後は年1回。 （2回目を蚊の発生の1ヶ月前に終えていることが望ましい） ・ウイルスは妊娠牛の胎子で増殖して流産などを起こすことが特徴なので、蚊の発生時期に妊娠する牛に対して予防接種が有効。 （このワクチンは、イバラキ病生ワクチンと同時注射すると効果が抑制されるので、イバラキ病生ワクチンとは2週間以上の間隔をおく。） <p>繁殖牛： </p>	1,639円 (1490円)
牛異常産3種混（不活化） ・アカバネ病 ・チュウザン病 ・アイノウイルス	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時期 上記アカバネ病に同じ ・主な症状 上記アカバネ病に加え、起立不能、てんかん様、 	3月～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・4週間隔で2回、筋肉内に注射。 ・蚊の活動によっておこる流行期の前に最終注射を終わること。 ・前年に本ワクチンを注射した牛には、1回注射する。 <p>繁殖牛： </p>	1,639円 (1490円)
イバラキ病（生）	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時期 夏から秋にかけて発生する。 ・主な症状 嚥下障害、結膜の充血・浮腫、膿様鼻汁、泡沫性流涎、鼻口腔粘膜の潰瘍・糜爛、死流産 	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての牛は、4週間隔で2回、その後は年1回。 （2回目は蚊の発生1ヶ月前に終えていることが望ましい） （このワクチンは、アカバネ病生ワクチンと同時注射するとアカバネ病生ワクチンの効果を抑制するので2週間以上の間隔をおく。） <p>繁殖牛： </p>	803円 (730円)
牛流行熱・イバラキ病混合（不活化）	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時期 夏から晩秋にかけて発生する。 ・主な症状 高熱、呼吸促進、泡沫流涎、関節炎、跛行、窒息死 	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての牛は、4週間隔で2回、その後は年1回。 （2回目は蚊の発生1ヶ月前に終えていることが望ましい） （イバラキ病と同じ） <p>繁殖牛： </p>	880円 (800円)





令和6年度 秋から冬にかけての予防接種 牛用



(公社) 静岡県畜産協会

ワクチン	疾病発生時期・主な症状	注射方法	料金(税込み)
<p>牛5種混合(生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染性鼻気管炎 ・ウイルス性下痢・粘膜病Ⅰ型 ・パラインフルエンザⅢ ・RSウイルス感染症 ・アデノウイルス感染症Ⅶ型 <p>“京都微研”</p> <p>牛5種混合生ワクチン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時期 季節に関係なく発生する。秋から春にかけて多発の傾向。輸送、放牧などのストレスも発生させる要因。 RS：細菌との混合感染で重症、死亡例もある。 ・主な症状 上記伝染性鼻気管炎に加え、発咳、水様性下痢、異常産、蹄冠部糜爛、流産、結膜炎、呼吸困難、血便、死亡 	<ul style="list-style-type: none"> ・5ヶ月齢以下の子牛や、初めての成牛は2～3ヶ月間隔で2回、その後は年1回。 (子牛は生後1～2ヶ月齢と4～5ヶ月齢、その後は年1回。) ・市場出荷牛、放牧予定牛は、1～2ヶ月前に注射。 ・妊娠牛、3週間以内に種付けを予定している牛、交配後妊娠の可能性のある牛には注射しないこと <p style="text-align: center;"> </p>	<p>2,365 円</p>
<p>牛5種混合(不)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染性鼻気管炎 ・ウイルス性下痢・粘膜病Ⅰ型Ⅱ型 ・同上 ・パラインフルエンザⅢ ・RSウイルス感染症 <p>共立ボビバック B5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時期 季節に関係なく発生する。秋から春にかけて多発の傾向。輸送、放牧などのストレスも発生させる要因。 Ⅱ型：発生がふえている。 RS：細菌との混合感染で重症、死亡例もある。 ・主な症状 上記伝染性鼻気管炎5種に同じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・5ヶ月齢以下の子牛や、初めての成牛は2～3ヶ月間隔で2回、その後は年1回。(子牛は生後1～2ヶ月齢と4～5ヶ月齢、その後は年1回。) ・市場出荷牛、放牧予定牛は、1～2ヶ月前に注射。 <p style="text-align: center;"> </p>	<p>2,299 円</p>
<p>牛下痢5種混合(不)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロタウイルス病3種 ・コロナウイルス病 ・牛の大腸菌症 <p>“京都微研”牛下痢5種混合不活化ワクチン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時期 季節に関係なく発生する ・主な症状 哺乳子牛の発熱、元気消失、水溶性下痢(灰白色～褐色)、粘血便 等、 	<ul style="list-style-type: none"> ・新生子牛の下痢予防を目的として、母牛に注射し母子免疫により子牛の下痢を防ぐ。 ・妊娠牛、初めての牛は1ヶ月間隔で、2回、その後は年1回。 <p style="text-align: center;"> </p>	<p>2,552 円</p>
<p>牛6種混合(生・不混合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染性鼻気管炎 ・ウイルス性下痢・粘膜病Ⅰ型(不)Ⅱ型(不) ・同上 ・パラインフルエンザⅢ ・RSウイルス感染症 ・アデノウイルス感染症Ⅶ型 <p>“京都微研”</p> <p>キャトルウイン6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時期 季節に関係なく発生する。春から秋にかけて多発の傾向。輸送、放牧などのストレスも発生させる要因。 Ⅱ型：発生が増えている。 RS：細菌との混合感染で重症、死亡例もある。 ・主な症状 上記伝染性鼻気管炎5種に同じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・5ヶ月齢以下の子牛や、初めての成牛は2～3ヶ月間隔で2回、その後は年1回。(子牛は生後2ヶ月齢前後と5ヶ月齢前後、その後は年1回。) <p style="text-align: center;"> </p>	<p>2,794 円</p>

ワクチン	疾病発生時期・主な症状	注射方法	料金(税込み)
<p>牛6種混合(生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染性鼻気管炎 ・ウイルス性下痢・粘膜炎Ⅰ型(生) ・同上Ⅱ型(生) ・パラインフルエンザⅢ ・RSウイルス感染症 ・アデノウイルス感染症7型 <p>“京都微研”</p> <p>カーフウイン6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時期 季節に関係なく発生する。春から秋にかけて多発の傾向。輸送、放牧などのストレスも発生させる要因。 Ⅱ型：発生が増えている。 RS：細菌との混合感染で重症、死亡例もある。 ・主な症状 上記伝染性鼻気管炎5種に同じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠牛、3週間以内に種付けを予定している牛、交配後妊娠の可能性のある牛には注射しないこと。 <p>(伝染性鼻気管炎5種混(生)、(不)と同じ)</p> <p>1回目 2~3ヶ月間 2回目 以後</p> <p>————— ————— ————— —————></p> <p>(子牛は生後1~2ヶ月齢) (子牛は生後4~5ヶ月齢) 年1回</p>	<p>2,794円</p>
<p>牛RSウイルス感染症(生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時期 9月から翌年5月にかけて多く発生する。 ・主な症状 呼吸器症状と発熱 食欲不振、流涎、流涙、鼻汁漏出、咳等 	<ul style="list-style-type: none"> ・子牛の市場出荷あるいは放牧の1ヶ月前に注射する。 (妊娠末期または分娩後間もないものへの注射は避ける) <p>(初年度) 1回目 2回目 (次年度以後)</p> <p>————— ————— ————— —————></p> <p>1ヶ月齢前後 4~5ヶ月齢 年1回</p>	<p>1,100円</p>
<p>牛3種混合(生)</p> <p>※鼻腔内投与型</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染性鼻気管炎 ・パラインフルエンザⅢ ・RSウイルス感染症 <p>ティーエスブイ3 zoetis</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主な症状 伝染性鼻気管炎、パラインフルエンザ及びRSウイルスの呼吸器症状に対する予防 	<p>出生直後から投与できる。農場の呼吸器発症リスクにあわせて柔軟なプログラムを組むことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 出生直後～注射型ワクチン投与までのRSウイルス対策 ② 秋～春のRSウイルス流行期に合わせた投与 ③ 肺炎多発期にあわせた投与 ④ 移動・導入前後の投与 <p>注射型ワクチンの効果が発揮されるまでの期間をカバー</p>	<p>1,859円</p>
<p>牛呼吸器病症候群</p> <p>3種混合(不活化)</p> <p>ヒストフィルス・ソムニ、パストレラ・ムルツダ、マンヘミア・ヘリチカ)</p> <p>“京都微研”</p> <p>キャトルバクト3</p>	<p>移動、離乳、環境変化などのストレスで</p>	<p>これからストレス環境下へおかれる牛</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 離乳前 2. 移動前、移動直後(単飼育から群飼育) 3. 導入前・導入直後 4. 導入時にハイリスクと診断された牛等 <p>-2か月 -1か月</p> <p>————— ————— ————— </p> <p>移動(輸送)</p> <p>移動(導入)</p>	<p>1,903円</p>
<p>牛のボツリヌス症</p> <p>“京都微研”</p> <p>キャトルウイン-BO2</p>	<p>乳牛、肉牛、月齢を問わず発症します。</p> <p>突然の起立不能、腹式呼吸、食欲廃絶、便秘等の症状を示し高い割合で死亡し被害も大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1mlを2か月齢以上の牛の筋肉内に4週間隔で2回注射する ・妊娠牛には注射しないこと <p>————— 1回目 (4週間隔) 2回目</p> <p>(2ヶ月齢以上)</p>	<p>1,298円</p> <p>×2回</p>

 **令和6年度 秋から冬にかけての予防接種 豚用** 

(公社) 静岡県畜産協会

ワクチン	疾病発生時期・主な症状	注射方法	料金(税込み)
豚伝染性胃腸炎・ 豚流行性下痢混合(生)	・発生時期 季節に関係なく発生する。冬季に多発の傾向。 ・主な症状 食欲不振、元気消失、(嘔吐)、水様性下痢	妊娠豚に対して、4ないし8週間の間隔(日生研)、約3週間間隔(化血研)で2回注射する。2回目の分娩予定日の約2週間前に注射。 4～8週間(日生研) 1回目 3週間(化血研) 2回目 2週間 分娩 妊娠豚：— ————— ————— ————— —————○————>	2回セット 2,046円